

デンマークで学んだことを日本で行うことは難しいかもしれないが

社会福祉法人 名張育成会
とも 生活支援員
耕野 宣仁

1.名張育成会は、どのような目的で海外視察を行うのか。

①その目的

海外視察を通じて得たものを、広く地域の皆さん、育成会職員に披露する

②いつから始めているのか。

今回で5回目(5年前より始めている)

2.今回、海外視察に何故立候補したのか。

①個人の目的や思い。

福祉先進国といわれているデンマークの雰囲気、政策、支援の仕方や考え方を見て感じて今後の支援に生かせれば、という思いで申込みました。

3.街の様子

①特徴

街はザ・ヨーロッパという感じで人は親切な方が多く、また交通手段に自転車を利用している人が、すごく多かった。



4.各視察先の様子

視察先のプロフィール、その特徴、視察の感想等



①高齢者施設

デンマークでは介護付き高齢者集合住宅というらしい(デンマークでは「施設」や「老人ホーム」というものは無いとの事)個人をすごく尊重しており、どの部屋を見ても普通の「家」の中にある様な雰囲気だった。

入居者にも職員にも配慮された構造になっており、また入居者も職員も表情がとても明るかった。



②障害者施設

施設自体が広く各個人に合わせた環境と支援が行われていた。

ここでも、たとえ障害があっても社会の一員として個人が尊重され、みんなゆったりとした時間の過ごし方をしていた。行政の支援も手厚い。



③もりの幼稚園

日中2歳～6歳までの幼児が通い親の送迎時間は自由。自然の中でいきいきと自分らしく育つということを目的にしている。

子どもが自然の中でのびのびと過ごし、「見守る」という支援がおこなわれていた。





④補助器具センター

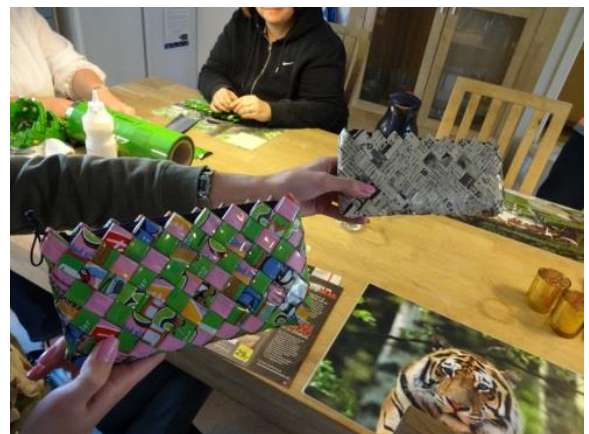
補助器具の貸し出し、メンテナンス、洗浄、家の改装補助器具の貸し出し等だけでなく家のバリアフリー化などの改装もおこなう。靴下を履いたりタバコを吸う補助器など使用者の細かなニーズに合わせた補助具が沢山あった。また補助器具センターで働いている職員が体に作業の際に負担が、かからない工夫や装置が沢山あった。



⑤精神障害者センター

比較的重度の方が入居されていて入居の審査も厳しい。入居者1人当たりに対し自治体から1日に約2000Kr(この施設では正確には2850Kr 日本円で約5万円)が支給されるとの事。

このセンターでは入居者の方の能力を保持し高めていくよう支援を行っている入居者の意思を尊重し、各個人に合わせた活動を提供しているとのこと。



⑥青少年クラブ 放課後センター

(ヴィアドクテン)

ロスキレ市には20程の小中学校があり、それに関連した放課後センターも20程ある。

- ・日本でいう所のクラブ活動があり所属したい所に所属する。
- ・演劇 ・手芸 ・ゲーム ・クライミング ・ゴーカート ・乗馬 etc



5.視察先、街での人との出会い、人の様子

①街の人の様子は日本とどう違うか

障害者なども社会の一員という考え(障害者の給料なども自治体が月、最低15000Kr 保障している。障害があっても納税もしている)また綺麗なレンガ作りの道などでも、よく見ると車椅子の人用の道が、しっかり整備されていた。

6.今回の研修の感想

今回の研修で見たり体験した多くの事をすぐに日本で行う事は難しいかもしれないが、たとえ今すぐに、取り入れる事ができないような方法や政策でも、これから先、どこかで役に立つ時がくると思います。とても貴重な体験をさせていただきました。

7.今回の研修で得た気づき

- ①哲学、理念としての概念(今後の人生に活かすこととして)個人というものを尊重し、おおらかに物事をみていきたいと思った。
- ②自分が具体的に現場に活かすこととして利用者主体で、余裕をもった活動や支援を行えるようにしたい
- ③他の職員に伝え職場で実践していきたい。状況や環境はデンマークとは違うけれども、マネできるものはマネし、良い支援方法や環境設定など日本型に変えて実施できればと思う。

